

輪になって打楽器たたたこう!!

初心者でも簡単に楽しめる「ドラムサークル」が注目を集めている。新年度に入り、1カ月半が過ぎた。少々疲れも出てきたこのごろ。心機一転、スカッとしたい。ほかほか陽気に恵まれたある一日、ドラムサークルの「青空演奏会」を決行した。

取材・高野寛子

気分爽快 ドラム サークル

良くなるらしい。青空演奏会の会場は城山町の城山公園ドングラ。観客はいない。ときおり吹き抜ける風が気持ちいい。集まったのは記者を入れて五歳から四十一歳までの七人。ほとんどが初対面だ。「子どもでも大丈夫ですか」「リズム感がなければいけませんか」の質問に笑顔でうなずく森田さん。自己紹介もそこそこきつそく準備されたドラムを手にする。

ドラムは「タンタン」「ジャーン」「アシーン」の三種類。ドラムを少し前に倒し、足ではさみながら演奏する。「ワン、ツー、スリー、はい」

参加者が輪になって座り、ガイド役の身ぶり手ぶりに合わせて一緒に世界各国の打楽器を奏でる「ドラムサークル」。楽譜も決まりもなく初心者でも大丈夫。ストレスを発散し、協調性

も身につくという。輪の中心となるのはドラムサークルファシリテーター協会公認「ドラムサークルかこしま」の代表者森田孝一郎さん(四七)。

ドラムサークルの魅力にひかれ、二〇〇五年にグループを立ち上げた。「年齢、性別、民族を超えて楽しめる。いつの間にか一つのリズムを共感して、仲

説明も指導もなく、いきなり始まった。最初は森田さんの見よう見まね。言葉はほとんどなく、森田さんのジェスチャーに合わせてたたき、自分の音が周

楽譜・決まりなし ■ 見よう見まねでリズム

りの音と同化し、森のさわめきにも聞こえて心地いい。それぞれたたくているようでも、いつの間にか一つのリズムを生み出し、音楽になっているから不思議だ。

最初は戸惑っていた参加者も体をゆらしたり、目をつぶったりと思いに楽しんでいる。気のせいかな、連れてきた犬も気持ちよさそう(に見える)。「ストップ」のかけ声がかかるまで、無心にたたいた。

次は、ドラムサークルのゲーム。このころには参加者はすっかり打ち解け、笑顔も見せるようになってきている。振るとシャカシャカと音がする動物や果物を形取ったシェイカーを、リズムに合わせて右手で取りながら隣

体ゆらし無心。気分まるでプロ

の人の左手に置く。落としても絶対に拾ってはいけない。ルールは簡単だが意外と難しい。わずか一分ほどでシェイカーは地面に転がっていた。

初めて会ってからわずか一時間あまり。参加した西田小二年

の後藤のみさん(七)、妹のわちゃん(五)は初めてのドラムサークルを満喫した様子。森田さんの次男、直音君(一〇)は「初めての人たちがたたくたけ楽しかった。またたきたい」と笑顔



「ドラム・サークルを広めて平和な世界をつくりたい」と話す森田さん



最初は少し緊張気味の参加者



森田さんのジェスチャーに合わせて無心にドラムをたたき



すっかり打ち解けたところで、ゲーム。シェイカーが地面に転がっている。



連れてきた犬もドラムの音に聞き入っているように見える